

刊夕 日五廿月七

# 常磐毎日新聞

定価 一部金貳圓 一月金五拾圓 郵費別  
 廣告料 五圓十二字 一月金五拾圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社  
 昭和十年七月廿四日

## 獨乙へ向ふ (一)

彫刻家 本田朝忠氏令妹  
 藝女出身 本田さよ子

### (第一信)

神戸では旅客も増して急に賑になりました。毎日楽しく過しておりますから何卒御安心下さいませ。  
 まもなく門司につきまます食卓でおとなりの方もやはり獨逸迄の方です、好きな讀書に心好いレコード等旅にある事を忘れず。御安心下さい、又後便にて。

### (第二信)

廿六日の正午に門司を出帆いたしました廿八日午前七時上海につきました。満鐵の二人連の伯林に行く方に仲間に入れて頂き、三井物産の出迎を受けて、市内外速く戦跡を見物いたしました。上海事變の三週年記念日に上陸したので當時の有様を印象深く聞きました。日本軍に焼かれた支那街も大分復興致しましたが、丸の跡の澤山ある残骸といつた家屋もまだあり、そごるに胸安しい想いです。三勇士で有名な廟構鎮にもゆきました。畑の中に小さい石がに支那で大きな廟を建てておきます。岡の一部をあらわ

れて、その上日本人の廟を建ててゐる、皆なの口からよく支那人は怒らないといふ次第です。  
 書は上海料理を夜はオデオンやうなぎ飯を御馳走になり、上海一のグランドと云ふ映画館に入り歸船致しましたのが九時でした。

★0000000000★  
 ○明日の献立○  
 ◎0000000000◎

【朝】味噌汁・南瓜  
 小付 鹽から

【晝】照やき 生鮭  
 大根あちやら

【晩】トマト煮 竹の子  
 ハム 鳴戸巻 豚肉

上海の街は奉天によく似ておりますので去年奉天からチチハル迄旅行した自分には大して珍らしくもありませんでした。たゞ男女共學のせいにか、モダンの女學生には驚きました、服装等男が女が一寸わがかりません。揚子江も話に聞いた以上には大きいのは驚きました。最大の所が河幅三十二哩もあるとか水はにごつて居りますが、一日平均六人位の身投げがあるとか、上海は又乞食が随分をります居住者には外人も多いため建物は多種多様です。  
 廿八日は記念日で市外はあぶないといふ人もありま

したが私連の案内人は在支三十年といふ支那人街の顔役とがで随分くわしく方々案内されお話しも委しく聞きました。  
 廿九日の午後二時出帆して香港に向ひます。三日位でつく筈です、では又御機嫌よう。

### (第三信)

一日午前五時半着きました、山を開いた町です山の美しさを眺め、オリーブもへらへら暖かです、グリヤを始め美しい花が澤山咲いておられます、外國といふ念が充分致します。元氣です、二日午前十一時にシンガポールに向ひます。香港にて

毎度有難うございます  
 野菜サラダ  
 ビフテキ  
 喫茶  
 宴会  
 女給数名募集  
 コンパル  
 TEL・666

母チヨ儀永々病氣之處、養不相叶廿二日午後三時遂に死去仕候間此段御通知申上候  
 追而七月廿六日午後一時自宅に於て告別式相営み午後二時出棺大寶寺に埋葬可仕候  
 昭和十年七月廿四日  
 平町白銀町

親 吉田禮次郎  
 吉田喜代素  
 吉田光治  
 吉田二郎  
 柴田徳二  
 鈴木木正男  
 鈴木木正男  
 平町木町(電話五八番)  
 藤田女學校前

耳鼻咽喉科専門  
**鈴木醫院**  
 醫學士 鈴木木正男  
 平町木町(電話五八番)  
 藤田女學校前  
 自炊のお需めに應ず  
 入院の便あり

## 開店拾週年感謝大賣出し

感謝 洋品部開店十週年を迎へまして吾れら店主店員一同今過去十年を顧み見て、かくも多大なる御後援御引立に對して今さら強く感謝の念にうたれる次第です。今度の賣出しは全く多年の御厚情に對する感謝の賣出しで御座います。特價品は原價以下普通品でも正札の一割二割、三割安に致しまして商品の大半をばんに抜きでお願いする事に致しました。御買逃しのなき様にございしく御來店の程お待ち申し上げます。  
 大黒屋店主店員一同

座布圍カパー(大判)・一七	レリススカート	五〇	本絹 ネクタイ	五〇	
本毛子 腹巻	二〇	バラリス二重張	一・二〇	白キヤラコワイシヤ	九〇
ガーゼ肌着	二重・二〇	ボフリン	傘	五五	
ボブソックス	四・五	リンネツト	小兒服	二・五	
トブラルコ家庭服	四・五	麻	靴下箱入(半打入)	六・五	
ポイルスカー	三・五	綿	靴下箱入(一本入)	五・〇	
		縮折	タオル箱入(三本入)	二・二	
		ワイシヤ	タオル敷布(上生地)	四・五	

大黒屋洋品店  
 平野三丁目 電話 一・一六

石炭一〇〇パーセント  
 サイヴキス  
 時節柄 値下げ!  
 ダンゼン  
 一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢  
 金參拾五錢  
 特塊同  
 品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局目方が正確  
 の此点は當店を絶對に御信用願ひます  
 ◎市内は一俵より配達致します  
 電話 三三七番  
 阿部石炭商店



# 自動車大暴れ

## 一名は瀕死・一名が重傷

### けさ綴街道の椿事

廿五日午前五時半頃内郷村綴前薄葉自動車店運轉手石山七郎(三)が空車の乗合を運轉し湯本町方面から平に向つて進行綴前街道を疾走中ハンドルを誤つて傍の水道栓に衝突破壊其處で水汲み中の坑夫千秋岩雄(三)を轢き倒し勢ひ餘つて附近に居た新聞配達人柴田某(二)を刎ね飛ばして頭部

に瀕死の重傷を與へ驚いて逃げ出した坑夫小松孝一(四)にも輕傷を負した揚句雜貨商鈴木留四郎の店頭に突き入りガラス戸を破壊する等慘々に暴れ廻つて停車したが被害者の三名はいづれも平町諸橋安齊上田三病院に收容手當中である柴田少年は生命危篤

### 狂つた中年男の無理心中か

#### 犯人も既に自殺したらし

#### 泉の女殺し後報

既報—泉村の婦人他殺屍體の身元は植田署の捜査本部で再調査の結果女は石川郡蓬田村生れ湯本町吹矢温泉旅館新葛事若松孝藤方女中吉田カツイ(三)相手の男は湯本町天王崎小松又郎(三)で男は妻に對する不満から六月に旅館で知り合つたカツイに血道を揚げて馴染を重ねた末内縁關係を迫つたが最近になつて女は男が餘り執拗なので嫌氣が差して居るのを見て取つた小松は去る廿一日自分の持家である小名濱のカフエ—天龍へ

### 長瀬技師

#### 海外へ

墓參に歸郷 平町三丁目米穀商長瀬延太

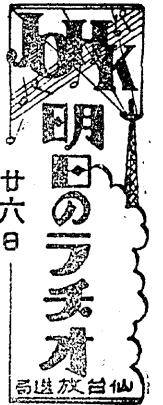
### 恨みの手紙を添へて捨て兒

#### 迷惑千萬です海氣館の話

#### 迷惑千萬です

廿三日午後十時頃東京足立區千住二の八地先暗がり色まだ四歳ぐらゐのみどり色人絹の洋服に白エプロンをかけたおかつばの可愛らしい女の兒が泣きながらさまよつてゐるのを通行人が発見千住署に連れてきて風呂敷包を開いて見ると著更への洋服やゆで玉子、キヤラメルなどと一緒に四倉町海氣館主豊田美孝氏あての手紙がはいつてゐた、文面は

この兒は百合子で四歳になります、貴方が上京神田に住んでゐた時妾との間に出来た兒です、御存



明日のラジオ 廿六日 西の風夕立模様

- 今晚の部
- 後六、〇〇 子供の時間
  - お話「夏の昆虫採集」名和梅吉
  - 後六、二五 講演「遠洋航海より歸りて」中村海軍少將
  - 後七、三〇 講演「農村更生の根本対策」福澤泰江
  - 後八、〇〇 清元「明鳥」清元喜久大夫
  - 後八、三〇 漫談「眞夏の夢物語」井口静波
  - 後八、五〇 浪花節「山椒太夫」富士月子
  - 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

- 明日の部
- 前六、三〇 英語會話講義
  - 前七、〇〇 朝の修養—家訓講話 白石正邦
  - 前七、四一 教育特別講座「師道に就て」永田秀次郎
  - 前八、〇〇 家庭講座「味噌と榮養」和田富起
  - 後八、〇〇 五時事小唄と尺八俗曲と豆漫談 一、獨唱「御風呂列車」生野静子
  - 二、漫談「大峰山異變」薄田畔曉
  - 三、尺八俗曲「流行歌吹き寄せ」尺八村地
  - 後八、四〇 婦人の時間「カッターグラス」工學博士高泥亭
  - 後六、〇〇 子供の時間
  - お話「南洋の土人の話」醫學博士長谷部言人
  - 後六、二五 夏期特別講座「全國神社めぐり」枝神社「宮西惟助
  - 後七、三〇 講演「地方財政の立直し」汐見三郎
  - 後八、〇〇 ビアノ獨奏
  - 後八、三〇 俚諺「追掛節」木村嘉藏外
  - 後八、四五 歌謡「面影」貢小秋
  - 後八、五五 ラヂオ風景「香港まで」テアトルコメデイ他

### 兒童の作詞した

#### 湯本振興歌

#### 盛大な披露演奏會

第一回の公開演奏會を催すが當夜は高等二年生松崎キミ作歌同校音楽研究會作曲になる湯本振興歌の披露演奏があるので盛會を豫想されて居るが歌詞左の如くである

一、朝だ夜明けた光明の朝だ  
我等の誓陽今こそ覺めぬ  
立て起て舉れ行け榮光  
農商水に鑛工業  
新興の我湯本あ、我湯本

二、朝だ夜明けた光明の朝だ  
腕はくろがね満ちくる力  
立て起て舉れ行け榮光  
地の利人の和時亨けて  
新興の我が湯本あ、我湯本

### 福浦の違反

#### 白水檢事出張

平區裁判所白水檢事は去る十六日より相馬郡福浦村へ出張同村村會議員選舉違反事件に關係者百餘名を召喚取調中であつたが大体終了したので近く歸郷すると

### シネマ週報

世界館 藤井貢、川崎弘子主演「金環蝕」小金井勝主演「陽炎」高田浩吉、飯塚敏子主演「死版から山」松竹發聲ニユース：二十錢

### 隅田川出水の死体一個收容

#### 残り一名も今夜中に

既報去る廿二日夜大出水の爲め坑夫三名を失つた好間村隅田川炭礦では椿事突發以來全従業員を動員して排

# 明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史  
(監) 野口

第百八十四回

空葛籠(一)

しかし、どうしてもこの情痴の世界から脱け切ることができない、ウエルズは

いまではおとわの容色に厭性をはたらかすといふよりも、むしろ愛するが故に憎むといふ、執拗、陰險なアングロ、サクソン民族性が齒をむき出し爪をあらはして来たのだ。

それはまた公使パークスへの反感のためでもあつた戀の争奪もあるが、それよりもパークスの専横を憎む餘涙をいまだパークスの愛妾であるところのおとわにあびせかけてゐるのだ。

だから、あくまでも執拗に、惨忍におとわの肉體を八裂きしようとしてゐる一つの窓と、一つの扉と正方形の殺風景な洋室だがその鐵格子のはまつた窓から紺碧の海と、淺みどりの空とがのぞいてゐた。

どこからかときどき、蒸気の汽笛が流れてきた。それは異國情調の豊かな開港場の淺春気分を感じさせるに充分だつた。おとわは時々窓から流れてくる汽笛に、耳傾けて哀愁の胸を抱いた。



横濱の居留地にちがひない。

さう思ひながらおとわはそくそくと胸にせまる悲しさをどうすることもならなかつた。

茂平次さんはいまこ



ろどうしてゐるか知らぬ。それから、あの人も……。

東京を一步はなれた横濱に居ることが、なんだか何千里も離れた外國のやうに思はれて、もう二度とふたゝびあのあたりにあふことが出来ないと思つた。その悲しさだ。けれど決してそれではなく、汽笛の

音がつくる無意識な旅愁もあつた。

おとわは海のある窓の風景は生氣のなくなつた瞳をおくつてゐた。

「おとわしやん」  
そのときウエルズは、哀切極まる聲でおとわの名をよんで椅子をすゝめた。

「……」  
おとわは一瞥もそれにはくれない。

「あんたが窓のそとをながめてゐること、わたくしにはよくわかる。この室をばやく出たいでせう。外はけ

いつた。

「まあ、おとわさん、あなたを暴力で自由にします、わたくしの願はあなたとの戀のあまさによひたいことです、それあるために、わたくしかうしていい日も、いく日も待つてゐるのです」

「むだです」  
「いやむだとは思はぬ、パークスを愛するあんたが同じ西洋人のわたくしを愛する事ができぬとはいはしません、わたくしまだ……辛抱します。あなたのこころ

抱きます。あなたのこころ

## 喜多流謡曲と仕舞の

お稽古を奨め致します

喜多流 謡曲 仕舞 白土會

平町田町六九 電話二一七番

産科 院長 木村寅次郎  
婦人科 醫學博士 内木宗八  
外科 藥劑師 立番彌一

平町新川町十九  
病室完備 入院隨意 木村病院  
電話一六四番

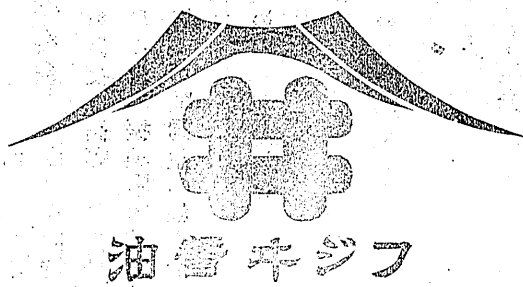
## 耳鼻咽喉科専門

平町(電話六九一番)

病室完備 自炊便有 山内醫院  
醫學士 山内亨吉

## 京品大賣出

景品 九升詰壹樽御買上毎二優  
良化粧石鹼三ヶ入壹箱  
特賣期間 自六月五日  
至七月卅日



油醬キヅフ

念記設開所張出平

賣特油醬傳井水戸

定(升)	最上	フジ井印	三圓九十錢
並	次	フク井印	三圓三十錢
價(詰)	並	カク井印	一圓八十錢

## 井傳醬油出張所

水戸市 井傳醬油醸造元  
電話四六番

特約店御希望ノ方ハ御報次第参上